

2024（令和6）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601008	事業の開始年月日	平成28年11月1日
		指定年月日	平成28年11月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア東林グループホーム		
所在地	( 252-0312 ) 神奈川県相模原市南区相南1-7-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 18名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年11月7日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

最寄小田急江ノ島線東林間駅より徒歩7分の閑静住宅地に立地。近隣には緑の楽しめる水道道路や東林間神社があります。「暮らしの場」としておだやかで明るく過ごせる時間・空間をめざしています。経験の少ないスタッフもおりますが、日々のチームプレーや教育研修を通じて、ご利用者のあるがままを受け入れ、思いやりと誠意を持って支え、つながりながら寄り添う職員集団を目指しています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年12月7日	評価機関 評価決定日	令和7年3月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<優れている点>  
介護の基本である生活歴から利用者の思いを知るだけではなく、利用者の「今の思い」を大切にしています。利用者が「今」訴えている事は、不快な事なのか、誰に訴えているのか気付くことが大事と支援に努めています。ホームの生活が自然な形になるように、利用者全員で行う行事や外出の他に、一人ひとりの時間も大切にしています。職員の提案で「利用者にゆったりとした時間を過してもらおう」「職員の特技を活かす」「外国籍の職員に日本の文化を知ってもらおう」全てを取り入れた敬老の日の茶道の会を開催しています。茶道の心得がある職員がお茶を点て、客人の利用者に飲みやすくミルクと砂糖でアレンジした抹茶とお菓子をもてなしています。利用者を席まで誘導する外国籍職員には浴衣を用意し日本文化を味わってもらおう会となっています。母の日には利用者の各居室で行うネイルサロンの会、家族も参加する毎年恒例の納涼祭など、職員が力を合わせ多くの行事を開催し、利用者も職員も楽しめることを実践しています。

<工夫点>  
ヒヤリハット報告が少なかったことから、ヒヤリハットの意義の説明や様式変更し報告しやすくすることで、リスク回避を実施しています。また、外国籍職員が会議書記を担い、議事録を日本語で作成しています。作成後はリーダーが添削し間違えた箇所を確認しています。他にも食事メニュー作成や日常業務で日本語に触れる機会を増やし、チームで働く意識を強めています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	令和2年つくった事業所理念を事務所に掲示し、毎朝礼で確認唱和している。管理者と職員が共通の意識付けの下でサービスを実践している。	利用者本位、地域密着の理念を掲げ、支援に努めています。毎朝礼時に唱和し、理念の周知をしています。支援方法に悩んだ時は介護者都合のケアにならないように、管理者を始め職員で介護者都合の支援をおこなった際の弊害について話し合いをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。近隣の方が傾聴ボランティアに来てくださったり、夏祭りに参加して下さっている。	利用者が自然に地域に出て行かれるように多くの地域行事に参加しています。オレンジカフェや公園清掃のクリーンデイ、傾聴ボランティアの受け入れなど、地域資源を活用し、事業所を知ってもらえるように積極的に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの認知症カフェに利用者と共に参加している。また、ベトナム、インドネシアからの技能実習生の受け入れを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を実施、民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族等にご参加いただき、報告、情報提供、相談など行っている。	運営推進会議に参加した利用者の「たまにはカップラーメンが食べたい」「お風呂上りに体重を計りたい」などの意見から実行しています。他の参加者より、「多くの利用者参加は他で見たことない」との意見も貰っています。今後も多くの家族の参加を得られるように検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設たよりを届ける等の際、適宜情報提供、相談している。	地域包括支援センター主催のオレンジカフェに毎月参加しています。近隣の人も参加するカフェで「馴染みの関係を作ることは大切です」と主催者より応援の言葉を貰っています。南区役所には生活保護受給者の保佐人申請など分からないことを相談し回答を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針の下で、拘束防止委員会を3月に1回実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	4点柵や立ち上がり抑制など、事故リスク回避の「行動を制限した場合」の弊害を根拠から伝えていきます。利用者一人ひとりの症状をフロア会議で話し合い、身体拘束廃止のケアを徹底しています。「転倒しないように」ではなく、「転倒しないように行動するには」を考えた支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。	利用者と職員の関係の近さを注意しています。接遇研修による丁寧な言葉遣いだけでなく、利用者の気持ちを大切に支援しています。不穏症状による支援に悩むときは職員間で情報共有し、職員の不安を解消しています。閉鎖的な環境にならないように、外部との接触を増やすことで、一歩離れて物事を捉える客観的な感情を忘れないよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。家族が疎遠になっている利用者には成年後見人を選出いただくよう関係者と話し合っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等で紹介したりもしている。意見箱を設置している。	家族面会時や、家族からの要望で時間を設けるなど、対面を大切にしています。今後は、同じ悩みを持つ家族同士も話せる機会を設け、家族が意見を言いやすい環境を目指しています。来訪できない家族に事業所の様子を知ってもらうため、写真を多く掲載した便りを郵送しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。	利用者に楽しんで生活してもらえるように多くの行事を取り入れています。職員の賛成意見だけでなく、反対意見も確認し、理念に立ち返り行事を進めています。楽しく働けるように、職員の意見を大事にしています。職員が適材適所でやりがいを見つけられる環境を目指しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守している。昨年より勤怠管理システムによる電子管理が稼働し、メリハリのある業務励行に努めている。	職員も事業所の中だけでなく外からの刺激を得られるよう戸外の行事を増やしています。夜勤帯のフロア1人の場合もユニット間で工夫し、助け合える環境に努めています。外国籍の職員も日本の文化に触れられるような行事を行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施している。資格取得に対する法人援助の活用している。	法人指定の最新資料で管理者が講師となり内部研修を実施しています。受講后感想を提出し、理解度を確認しています。多くの職員が受講できるように人員配置を工夫しています。外からの情報は大切と、外部研修受講を推奨し、非常勤職員も自ら参加して新しい知識を得ています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人の5つのグループホームで毎月事例検討会を実施し、情報共有・事例検討等でサービスの向上を図っている。また、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修等への参加、他ホームとのネットワークづくりを進めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なお様子を共有できるよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月の施設での生活を写真付きのお便りにしてご家族に送っている。面会や、電話、お手紙の支援を行っている。	宗教の継続や、携帯電話持参の人は家族や友人と連絡を取り合っています。事業所の電話を取り次ぐこともあります。図書館へ出かけ本を借りたり、生け花が好きな人が花を買いに出かかっています。空や花を描く人には利用者の好みの紙を渡すなど、一人ひとりのこだわりを大切に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行している。	入浴時間や居室掃除の際、散歩時など、大勢でいる時ではなく、利用者と1対1に向き合える時間を大切にしています。BPSDなどの心の訴えには、生活歴を知ることはもちろんのこと、「利用者の今」も大事にしています。その訴えは、生活歴からくるものなのか、環境なのか、身体の痛みからなのかを考えて支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話やレクリエーションの中等で、出身地や好きなもの、兄弟、時代等の話題を取り入れ、事前情報では把握しきれなかったことも知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族の意向確認や意見把握の機会が少ないが、介護リーダーが中心となって、課題やケアの内容をスタッフで話し合い、サービス内容の改善を図っている。	利用者本人の意見を重視し、担当者会議以外に、日々の様子を職員全員で観察しています。生活面や医療面、やりたい事、重点的に気を付けることをケアプランに反映しています。利用者自身で署名ができる人にはお願いしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録にケアプランの課題やサービス内容が分かるようにしている。個別ケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ネットでの動画を活用した多種のレク等を実施している。 食べたい物や個別外出など、出来る範囲で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	認知症カフェや地域行事に積極的に参加している。 また、図書館へ本を借りに行ったり、地域清掃に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行している。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。 入居前からのかかりつけ医に引き続きかかられている方もいる。	協力医以外の以前からのかかりつけ医受診の際も体調の変化がある時は電話連絡を行い、内容を事業所で把握しています。管理者不在時の怪我や病気には患部や様子を写真に撮り、連絡を取り合うなど、職員の主観が入らない適切な処置に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1日の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話オンコールにて報告、指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院の相談員等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付している。家族からの要望により、訪問診療医との看取り同意をしている入居者がおられる。	最期まで「自然な形」「無理のない形」の支援を目指しています。医師と状況を細かく相談しながら支援の判断をしています。苦痛のないよう、医師と家族の橋渡し役に努め、疎遠の家族とも連絡を取り合い、看取り支援に繋げています。葬儀後の火葬場まで最期の見送りをする職員もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めている。施設内研修を実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づく年2回の消防訓練の他に、大規模災害（大地震）を想定した初期行動マニュアルをつくり、防災訓練を実施している。前回の消防訓練には自治会の方も参加していただいた。	備蓄倉庫入り口に複数の首下げライトや拡声器を備え、災害時に取り出しやすくしています。拡声器は万が一の際に近隣の人へ大声で緊急を知らせるために用意しています。平常時から各トイレに簡易ライトも設置しています。避難訓練に自治会防災部担当者の参加を得て、避難後の見守りをお願いしています。	災害備品を平常時に実際に使用し、災害時に職員全員が使用できることが期待されます。倉庫の整理も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申送りや指導、教育研修等を通じ、画的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。	入浴更衣時の痣や皮膚疾患などの確認をさりげなく行い、利用者が不快な気持ちにならないように気を付けています。介助の際は「できないこと」と決めつけず、「今日は手伝わせてもらう」気持ちで利用者の自尊心に配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。介護リーダーがご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフに、主体がご利用者であることの意識付けを徹底し、業務を優先することなく、ご利用者に寄り添うよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や食後などの整容支援、ピン止めをしたい、髭を伸ばしたい等、本人の希望に沿った支援を行っている。また定期的に訪問美容師を呼び、希望者が施術を受けられるようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの掲示、食前のメニュー説明、恵方巻やうなぎ等の季節の料理、誕生会、敬老会、クリスマス会等の行事に特別食を楽しんでいただいている。食事準備、片付けに参加していただいている。	職員が調理した温かい食事を提供しています。誤嚥に気を付け安全に食事ができるように気を付けています。とろみをつける場合にも水ではなく煮汁にとろみをつけるなど美味しいものを提供できるように配慮しています。誕生日にはフロア全体で祝うことや、利用者の好きな店で外食するなど利用者の希望に応じた支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食事形態等にも考慮して対応。液体が摂取しにくい方には		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行している。希望により訪問歯科診療を利用して、口腔内点検、義歯の修理等を行っている。軟らかい歯ブラシやポイントブラシ、口腔スポンジなどその方に合った物を使えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導にて失禁減少に努めている。日々の排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。	自身でトイレに行かない人や、尿意を感じない人には声かけをしています。オムツや排泄についての外部研修に参加するなど、排泄についての新しい情報も取り入れています。皆が気持ちよく使用できるようトイレはこまめに清掃しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者毎に入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応している。週2回の入浴を基本とし、シャワー浴や清拭で対応することもある。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいた。	個浴と半機械浴を設置し、重度化した人も安全を第一に安心して湯船に浸かれるようにしています。自身でできることの声かけや、間違えないようにシャンプーを手の中に出してあげるなど残存能力を大事にしています。時には職員が洗髪し、ゆったりと寛いでもらうなどの工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なシーツ交換や換気などの環境整備、日中の活動や外気浴支援、夜間の就寝の声掛けや傾聴など励行している。 画一的な消灯時間は設けず一人ひとりのペースで生活していただき、疲れのある方は昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習を励行している。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。 野菜を切る、料理の盛り付け、洗濯干し、テーブル拭き、絵を描く、ぬり絵、読書、時代劇鑑賞、ジェンガなどされている方がいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応している。玄関前にはベンチを常設し利用者の話を傾聴することもある。フロア状況に応じて散歩を実施している。	季節の外出だけでなく、読書の好きな人が図書館へ、飾るお花を買いに行く人など、事業所で暮らしていても日常に外出がある生活を目指しています。利用者同士で「一緒に本を借りに行きましょう」などの誘い合いの言葉も生まれています。外出することを好まない人も外のベンチで外気浴をするなど、無理強いせず、一人ひとりに合った外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的な金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品をメモによる依頼で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。 イベントや季節の飾りつけをご利用者と一緒に作るなどしている。	月単位で季節の飾りつけをしています。食事を楽しみにしている利用者が確認できるように、リビングに朝昼晩と手書きの食事のメニューを掲示しています。外国籍の職員がメニュー作成時に漢字に悩んだ際、利用者に教えてもらうなど、コミュニケーションの一環にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。	利用者と家族の意見を取り入れています。ベッドを使用していない人、生け花を飾る人、健康器具を置いている人など、その人のこだわりを重視し、入居前の自室を再現している個性豊かな居室になっています。転倒リスクのある人にはベッドから家具を伝ってドアに行けるように動線を作り、安全に生活できるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。 ご利用者が「できること」を安全に続けられるように低い物干しを用意するなど の工夫をしている。		

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	令和2年つくった事業所理念を事務所に掲示し、毎朝礼で確認唱和している。管理者と職員が共通の意識付けの下でサービスを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。 近隣の方が傾聴ボランティアに来てくださったり、夏祭りに参加して下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの認知症カフェに利用者と共に参加している。 また、ベトナム、インドネシアからの技能実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を実施、民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族等にご参加いただき、報告、情報提供、相談など行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設たよりを届ける等の際、適宜情報提供、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針の下で、拘束防止委員会を3月に1回実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。家族が疎遠になっている利用者には成年後見人を選出いただくよう関係者と話し合っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等で紹介したりもしている。意見箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守している。昨年からの勤怠管理システムによる電子管理が稼働し、メリハリのある業務励行に努めている。		
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施している。資格取得に対する法人援助の活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人の5つのグループホームで毎月事例検討会を実施し、情報共有・事例検討等でサービスの向上を図っている。また、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修等への参加、他ホームとのネットワークづくりを進めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するように努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するように努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月の施設での生活を写真付きのお便りにしてご家族に送っている。面会や、電話、お手紙の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話やレクリエーションの中で、出身地や好きなもの、兄弟、時代等の話題を取り入れ、事前情報では把握しきれなかったことも知っていきけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族の意向確認や意見把握の機会が少ないが、介護リーダーが中心となって、課題やケアの内容をスタッフで話し合い、サービス内容の改善を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録にケアプランの課題やサービス内容が分かるようにしている。個別ケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ネットでの動画を活用した多種のレク等を実施している。 食べたい物や個別外出など、出来る範囲で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	認知症カフェや地域行事に積極的に参加している。 また、図書館へ本を借りに行ったり、地域清掃に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行している。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。 入居前からのかかりつけ医に引き続きかかられている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1日の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話オンコールにて報告、指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院の相談員等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付している。家族からの要望により、訪問診療医との看取り同意をしている入居者がおられる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めている。施設内研修を実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づく年2回の消防訓練の他に、大規模災害（大地震）を想定した初期行動マニュアルをつくり、防災訓練を実施している。前回の消防訓練には自治会の方も参加していただけました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の送りや指導、教育研修等を通じ、画的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。介護リーダーがご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフに、主体が利用者であることの意識付けを徹底し、業務を優先することなく、ご利用者に寄り添うよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や食後などの整容支援、ピン止めをしたい、髭を伸ばしたい等、本人の希望に沿った支援を行っている。また定期的に訪問美容師を呼び、希望者が施術を受けられるようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの掲示、食前のメニュー説明、恵方巻やうなぎ等の季節の料理、誕生会、敬老会、クリスマス会等の行事に特別食を楽しんでいただいている。食事準備、片付けに参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食事形態等にも考慮して対応。液体が摂取しにくい方には		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行している。希望により訪問歯科診療を利用して、口腔内点検、義歯の修理等を行っている。 軟らかい歯ブラシやポイントブラシ、口腔スポンジなどその方に合った物を使えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導にて失禁減少に努めている。日々の排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者毎に入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応している。週2回の入浴を基本とし、シャワー浴や清拭で対応することもある。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なシーツ交換や換気などの環境整備、日中の活動や外気浴支援、夜間の就寝の声掛けや傾聴など励行している。 画一的な消灯時間は設けず一人ひとりのペースで生活していただき、疲れのある方は昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習を励行している。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。 野菜を切る、料理の盛り付け、洗濯干し、テーブル拭き、絵を描く、ぬり絵、読書、時代劇鑑賞、ジェンガなどされている方がいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応している。玄関前にはベンチを常設し利用者の話を傾聴することもある。フロア状況に応じて散歩を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的な金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品をメモによる依頼で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。 イベントや季節の飾りつけをご利用者と一緒に作るなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。 ご利用者が「できること」を安全に続けられるように低い物干しを用意するなど の工夫をしている。		

2024年度

事業所名 アクア東林グループホーム  
作成日： 7年 4月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害備品を平常時に実際に使用し、災害時に職員全員が使用できることが期待されます。倉庫の整理も期待されます。	災害時により多くの職員が災害備品の場所や何がどのくらいあるのかを理解し、実際に使用することが出来利用になる。	災害訓練、防災訓練の際に災害備品の場所やリストの確認を行い、実際に使用訓練を行う。また普段から倉庫の整理を心掛ける。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					